

— 特集 —
未来に続くものづくり

伝統
×
○○○



伝統は少しずつ姿を変えながら、現代に生きる「もの」として受け継がれています。

伝統工芸品は、ただ大切に保存するだけでなく、使い、暮らしの中で楽しむことが大切です。その積み重ねが、ものの価値を次の世代へ伝え、ものづくりを未来へつなぐ力になります。

この特集では、伝統を生かしながら、新たな価値を生み出す皆さんを紹介いたします。これからの会津のものづくりと一緒に考えてみませんか。

●問い合わせ：商工課（☎39・1252）

会津地域には、会津木綿や会津型、会津漆器など、長い年月をかけて受け継がれてきた、さまざまなものづくりの文化があります。これらには、先人たちの技術や知恵、土地の風土や暮らしの中で育まれてきた想いが息づいています。

こうした伝統を未来へつないでいるのは、受け継いだ技術を大切にしながらも、今の時代に合った新しいものづくりに挑戦する人たちです。伝統の技術に新しいデザインや素材、発想を掛け合わせることで、伝

目次

- 2 【特集】伝統×○○○
未来に続くものづくり
- 12 【くらし情報拡大版】
 - ・市役所窓口の受付時間が変わります
 - ・インフルエンザ予防接種の実施 ほか
- 20 【いろいろ市政情報】
 - ・特定疾患の患者見舞金を支給します ほか
- 21 【子育て情報ステーション】
- 22 【健康だより】
- 24 【ほっとコレクション】
- 26 【みんなのページ】
- 28 【くらし情報あらかると】
- 34 【あれこれカレンダー】
- 35 【今月の病院情報】

編集に寄せて

▶ものづくり特集を担当しました。取材では、伝統を守るだけでなく、今の暮らしに合う形へ変化させながら、ものづくりをする皆さんの姿が印象に残りました▶「伝統工芸品」と聞くと少し特別に感じますが、暮らしの中で使い、手入れをしながら「心のこもったもの」と長く付き合うことも、伝統を未来へつなぐ一歩なのだと思います。皆さんも、実際に手に取って使いながら、会津のものづくりを感じてもらえたらうれしいです。（渡部）

はらっぱ
HARAPPA の
工場見学
フォトギャラリー



【天日干し】
糸を染色したあと、天気の良い日は中庭に干します



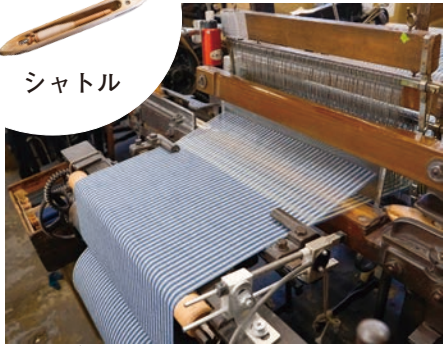
【糸の検品】
糸の太さや状態、ごみが紛れていないかを全て確認します



【糸繰り】
糸をかせ(糸を巻いた束)からボビンに巻き取ります



【経通し】
織り機の部品に、経糸を1本ずつ手作業で通していきます



【製織】
シャトルが経糸の間を行き交い、丈夫で風合いのある会津木綿を織り上げます

会津木綿の愛用者に聞きました！

商品の販売イベントなどで活動するときに着用しています。
会津木綿は身体になじむので動きやすく、とても着心地が良いです。



【(株)堤製作所】
堤 秀子 さん(右)・
万里奈 さん(左)

市内で約100年にわたり、農具の鋳造専門「姫鋳」を作り続ける(株)堤製作所。昔ながらの技法を受け継ぎ、地域のものづくりを支えています。

その1

夏は通気性が良く、**涼しく快適！**

その2

冬は生地の中に層ができて**暖かい！**

その3

丈夫で長持ち！

知ってた？

会津木綿の
魅力

昔の会津木綿には、地域ごとに異なる縞柄があり、縞を見ればこの人か分かるほどだったといわれています。
色や縞の幅の組み合わせによって印象が変わります。



棒縞

定番柄のひとつ。すっきりとした縞



すいか縞

すいかの色合いから名付けられた縞



はで縞

色の組み合わせが目を引き、個性豊かな縞

受け継いだものを、今の暮らしへ

「会津木綿は、地域の暮らしや文化と深く結びついてきたものなんです」そう話すのは、会津木綿のものづくりに取り組む、(株)はらっぱの矢作和歩さん。約400年の歴史がある会津木綿は、会津藩が綿花栽培を奨励したことなどを背景に発展し、かつては農家の副業としても作られていました。工場では今も、100年以上前から使われている機械が現役で動いています。「昔の人たちが機械や技術を残してくれたから、今こうして会津木綿に注目が集まっています」と話す矢作さんの言葉からは、受け継がれてきた技術や道具への思いが伝わります。



色とりどりのパンツや上着などの服が店内に並びます

の暮らしに合う衣料品や生活雑貨などの製品づくりに挑戦しています。
また、技術を未来に残すためにはそれを担う「人」の存在も大切です。「地元出身者だけでなく、移住者など新しい担い手も迎えながら、これからも新しいことに挑戦し、会津木綿を未来につないでいきたいです」と笑顔で話してくれました。

Interview 1



(株)はらっぱ
や ば ぎ かつ ほ
矢作 和歩 さん



リバーシブル
デザインの帽子



はらっぱの
看板猫



漆×北欧 デザイン



会津型× 紙糸かみいと

会津の冬にも、気持ちが弾むものを作りたい

今後について、「ものづくりを志す若い人たちをサポートする活動にも取り組んでいきたいですね」と笑顔で話してくれました。

北欧から得た感性と会津の風景を重ね、使う人の心を明るくする漆器を生み出す二瓶さん。「まずは、自分が描いていて楽しいこと。そして、その器を手にとった人にも『楽しい』『うれしい』と感じてもらいたいです」と心をこめて、日々制作に励んでいます。



漆作家
二瓶 由布子 さん

Interview 3

会津型から生まれる、新しいものづくり

江戸時代から続く染型紙「会津型」を生かしたもののづくりに取り組む瀧井和篤さん。「会津型にはさまざまな柄が残されており、身近なものを柄にする自由な発想が面白いです」と話します。瀧井さんが取り組んでいるのは、かつて着物の柄として用いられていた会津型を、環境に配慮した素材として注目されている「紙糸」を使った製品に取り入れる、新しい伝統のもののづくりです。会津型の紙染めや紙糸を使った機織りなど、ものづくりを体験できる機会も設けています。「実際にやってみることで、職人の技術やものづくりのおもしろさを感じてもらいたいです」と話す瀧井さん。まだ会津型を知らない地域の人が多いからこそ、まずは身近に感じてもらうことが大切だと考えています。「もつと地域の人に会津型を知ってもらい、会津ならではのデザインで、新たな魅力を生み出していきたいです」とこれからのものづくりへの思いを語ってくれました。



会津型染織 TSUMUGI
たきい かずしげ
瀧井 和篤 さん

Interview 2



1



2

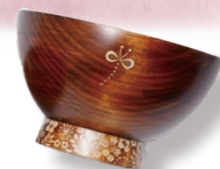


3

1_漆を塗った器は漆風呂に入れて、適度な温度と湿度を保ちながら乾燥させます 2_益子焼と会津塗りのコラボ作品を制作する様子 3_二瓶さんの作品は福西本店(中町)で取り扱いをしています

会津漆器はサステイナブル？

漆は傷や塗りの剥がれが生じても、修理や塗り直しによって再び使うことができます。一度使って終わりではなく、手入れをしながら大切に使い、次の世代へ受け継いでいく。こうした「ものを大切にする」文化は、ものを捨てずに長く生かす、環境にやさしい暮らしにもつながっています。



1



2



3

1_会津の伝統工芸品である「桐」をモチーフにした会津型の柄 2_紙糸は紙素材や間伐材を活用し、糸車で撚りをかけて仕上げます 3_紙糸を使用した製品は水分を吸収しやすく、蒸れにくい性質があります

「会津型」知っていますか？

会津型は、着物などの染色に使われてきた型紙です。江戸時代には、渋柿から作られる「柿渋」を塗って丈夫にした型紙に柄を彫り、生地を染めていました。会津若松市や喜多方市でも型紙づくりが行われ、柄を繰り返してつなげることで、さまざまな模様を生み出してきました。



ものづくりを育てる場所

職人の高齢化や後継者不足により、会津のものづくりを支える人材は減少しています。技術を受け継ぐ若者がいても、機械や作業場といった設備の確保が必要となり、独立への大きな壁となっているのが現状です。

関美工堂は、「ヒューマンハブ天寧寺倉庫」にシェア工房を設け、ものづくりの設備や作業スペースを共有できる環境を整えています。作り手を支え、ものづくりを仕事として続けられる環境をつくることで、会津の技術を次世代へつないでいきます。



関美工堂のシェア工房
から広がるものづくり

シェア工房のはじまり／

アウトドアで楽しめる漆器 NODATE

会津漆器の技術を取り入れた「NODATE」は、木地づくりや漆塗りなどの製作過程を分業し、複数の職人の技を生かして作られています。製作する職人の作業環境を整えるためにシェア工房が始められました。



シェア工房だからこそ
良さがある

岸野さん 私は3月に独立し、現在は美工堂のシェア工房を拠点に活動しています。木地師は、木を加工したり、刃物を鍛造するための設備が必要です。木地をつくる前の木はとて大きいので、自宅だけでは難しい作業もあります。こうした設備が整った場所を使えることは、ありがたいですね。

矢吹さん 私も自宅に工房がありますが、大きなものを扱うときや、設備が必要な作業ではここを利用しています。

関さん 次世代の作り手の独り立ちを応援するために、この場所をつくりました。実際に使ってもらえるようになり、とてもうれしいです。

岸野さん 一人で工房にこもって仕事をしていると、関わる人が限られてしまいます。でも、ここは作業場がガラス張りです、いろいろな仕事をしている人が出入りします。普段なら出会わない人と話すことで、新しい刺激を受けたり、仕事につながりすることもあります。

矢吹さん 以前、県外から来た人が期間限定で工房を借りて、初めて漆を塗る経験をしたこともありました。実際に触れてみることで、漆のことを知ってもらえる。そういう場所があることは大きいと思います。

関さん 職人さんが普段から当たり前前にしている仕事も、外から見ると、とても魅力的なんですよ。職人が日々ものを作っている姿そのものを見てもらう。それが会津のものづくりの魅力を知ってもらえるきっかけになればと思っています。

関美工堂 × 伝統工芸の作り手

3人の対談インタビュー



さまざまな設備が並ぶシェア工房の様子

これからの、会津の
ものづくりについて

岸野さん 会津には、昔から受け継がれてきた木地師の轆轤技術があります。私は石川県で学んだ轆轤技術を会津で生かしていますが、自分の技術だけではなく、この土地で受け継がれてきた技術も絶やしてはいけなと思っています。会津の木地師として、自分に何ができるのかを考えながら活動していきたいです。

矢吹さん 金虫食塗や鉄錆塗など、会津漆器には、会津ならではのさまざまな塗りの技術があります。受け継がれた技術を残していくためにも、現代の暮らしに馴染み、今の世代の人にも手に取ってもらえるものを作っていきたいですね。

関さん 伝統を残すには、技術を伝えるだけではなく、実際に使ってもらい、仕事として続けられることが大切です。だからこそ、若い人が「ものづくりをやってみよう」と思ったときに、この場所が一步を踏み出せる場所になればと思っています。そして、ここで生まれたつながりが、新しい仕事や商品につながり、作り手がものづくりを続けられる。その先に、次の世代がある。そんな循環を、この場所から生み出していかたいですね。

関美工堂
関 千尋 さん

塗り師
矢吹 安里紗さん

木地師
岸野 和貴さん



きんむしくいぬり
▶ 金虫食塗



てつさびぬり
▶ 鉄錆塗

伝統工芸の技術を勉強中！



【会津漆器技術
後継者訓練校】

蒔絵専攻 第21期生
城之内 琴美 さん

高校生のころから、ものづくりや工芸に興味をもち、会津大学短期大学部で漆を学び始めました。今は漆だけでなく、使用する道具の作り方なども学んでいます。さまざまな職人さんから直接話を聞くことができ、同じ作業でも職人さんによって考え方が違うところがとても面白い。また、作業を間近で見られることも、ここで学ぶ魅力に感じています。

傷がついても修理しながら長く使ってもらえる、そんな愛着のわく作品を作りたいです。受け継いだ伝統を大切にしながら、新しいことにもチャレンジしていきたいですね。



【地域おこし協力隊】

石原木工所
堀場 亜美 さん

私は「木」に関わるものづくりに興味があり、技術を受け継ぐ仕事に魅力を感じたので、現在は地域おこし協力隊として木地師の技術を学んでいます。木地師は、漆器などの形となる「木地」を、木の性質を見極めながら削り出す職人です。

石原木工所で受け継がれてきた「鈴木式轆轤」という技法を学ぶ中で、木には一つ一つ節や癖があり、扱いの難しさがある一方、それぞれの木の個性を生かす面白さも感じています。まずは一人前の木地師になり、お客さんの希望や思いを自信をもって形にできる職人を目指します。





会津ブランド ものづくりフェア in まちなか2026

【とき】
10月17(土)
午前10時～午後4時
10月18(日)
午前10時～午後3時

【ところ】
鶴ヶ城体育館

会津地域の工芸品や特産品、グルメが集まる、ものづくりの一大イベントです。
今年はベテラン職人や次世代の若い作り手が鶴ヶ城体育館に大集結します。
●問い合わせ…商工課(☎39-1252)



実演



製作工程を見たり、作り手の皆さんと交流したりすることができます

ワークショップ



会津地域の工芸品の絵付け体験や製作体験ができます

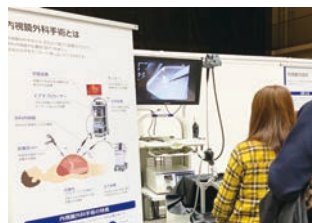
展示・販売



多数の工芸品や特産品を見て、手に取って、購入できます

企業・団体ブース

ものづくり関連の企業や団体の皆さんが、各ブースで商品の展示や販売、体験などを行います



▲会津オリンパス株のブース



▲会津ミツバチプロジェクトのブース

体育館前駐車場

ものづくり体験コーナー

木工製作体験などを楽しむことができます

グルメ・飲食コーナー

会津のグルメが多数出店します



伝統を受け継ぐ人、新しい価値を生み出す人、そして、ものづくりを楽しむ人。さまざまな人の思いが重なり、会津のものづくりは未来へとつながっていきます。
市内では、職人の技を「見て」、ものづくりの背景を「知って」、実際に「体験」できるイベントが開催されます。まずは、ものづくりにふれることから。あなたも会津の伝統と、これからのものづくりを感じてみませんか。



雪国ものづくりマルシェ 2026秋

【とき】
10月24日(土)
午前10時～午後5時

【ところ】
県立博物館

今回のテーマは「**手しごと、手わたし、会津のわたし**」

会津の豊かなものづくりや食の文化にふれ、職人の技や知恵、素材への想いを体験できるマルシェです。「つくる」楽しさを通して、会津の魅力を感じてみませんか。

●問い合わせ…県立博物館(☎28-6000)



マルシェ
Instagram

ものづくり体験

あなただけの宝物を作りませんか。

- 本郷焼のかけらを使った、オリジナルアクセサリー
- ペーパーアート
- 漆を塗った和紙を使った、ちぎり絵
- 流紋塗
- 手すき和紙作り
- 竹炭と蜜蝋から作ったクレヨンでお絵かき
- 薪割り・竹箒の加工

販売

会津漆器や会津木綿、会津本郷焼、和紙、絵画などを販売します。

会津のおいしいものも
盛りだくさん！



体験してみよう！

どきどきわくわく♪

会津漆器技術後継者
訓練校の皆さんの作品